

「第二次新潟市立図書館ビジョン（案）」の
市民意見募集（パブリックコメント）の実施結果について

新潟市立中央図書館

1 パブリックコメント実施の概要

（1）意見募集期間

令和元年10月24日（木）～令和元年11月23日（土）

（2）広報手段

- ・市報にいがた、市ホームページに掲載
- ・市政情報室、各区役所、各出張所、各図書館、各公民館（10館）にて資料配付

2 パブリックコメント提出意見の概要

（1）意見提出者数

5名（提出方法：電子メール2名、窓口へ持参3名）

（2）意見数

9件

（3）案の修正

なし

（4）提出意見

別紙参照

第二次新潟市立図書館ビジョン（案）パブリックコメント結果 意見の概要と市の考え方

●提出者数：5名

●意見数：9件

No.	箇所	項目	ご意見の概要	市の考え方	修正
1	全般	—	図書館は全ての世代、様々な状況の市民を支える場所です。私は県外各地で暮らし、各地の図書館に助けてもらいました。見知らぬ土地で不安も大きいとき、その地域の図書館が充実していると、子どもも親もうれしく心強く、その都市への信頼感が生まれました。これから新潟市が、より住みやすく、移住しやすい都市になるためにも、図書館の充実は不可欠と考えます。財政も厳しいことと思いますが、未来のために、図書館の予算を確保、充実して下さるようお願いいたします。	ご意見ありがとうございます。新潟市に継続してお住まいの方にも、市外から転居してこられる方にも期待される図書館になるよう、限られた財源の中で事業の充実に努めていきます。	無
2	全般	—	4つの「目指す図書館像」は、解りやすく具体的に示してあるため、理解しやすく期待できる。中でも「イ 特色ある地域づくりに寄与する『分権型図書館』」と、「ウ 子どもの読書活動を推進する『学・社・民融合型図書館』」に期待します。	ご意見ありがとうございます。ご指摘の「イ」と「ウ」は、第二次計画で引き継いだ「イ 特色ある地域づくりのために地域資料を収集・活用します」と「ウ 子どもの読書活動を推進します」として取組を進めていきます。	無
3	13p	ア 市民の生涯学習や課題解決を支援します	「高齢者のニーズに対応する」という内容を入れる。高齢化社会に対応し、シニア、シルバー世代への対策を加えてはいかがでしょうか。	高齢者のニーズについては、「施策1」の「多様な利用に応じた図書館サービス」の中で様々なニーズに対応していきます。	無
4	14p	イ 特色ある地域づくりのために地域資料を収集・活用します	図書館では市民に身近なものを見たい。中央区役所や本庁に設置してある資料についても図書館で設置してほしい。また、読書バリアフリー法の観点から、文書で設置してほしい。	図書館で設置可能な地域資料の収集・提供に努め、読書バリアフリー法の観点にも配慮いたします。	無
5	14p	イ 特色ある地域づくりのために地域資料を収集・活用します	自分の地域を知ること、より深く理解することは、地域に関心を持ち地域を愛すること、大切にすることに繋がります。繋がることで図書館を身近な場所として利用者が増加すると思われます。	地域資料の活用を通して、地域への愛着や誇りを醸成する取組を行い、図書館の利用につなげていきます。	無
6	14p	ウ 子どもの読書活動を推進します	ブックスタート事業の「充実」を「充実と継続」とする。ブックスタートは1歳歯科健診を受診する子どもと保護者に向けて、絵本や図書館利用について直接伝えることができるので、継続を希望します。	取組②の「ブックスタート事業の充実【継続】」として、引き続き取り組んでいきます。	無

No.	箇所	項目	ご意見の概要	市の考え方	修正
7	14p	ウ 子どもの読書活動を推進します	予算の無い中ですが、ブックスタートと3歳児健診での働きかけ、興味づけにより、良い本との出会いが生まれ、確実に読書習慣が身についてきます。この年齢を大切に支援していただきたい。	ブックスタートと3歳児健診での働きかけについては、「第三次新潟市子ども読書活動推進計画」と併せて取り組んでいきます。	無
8	第6章 第7章	省略	本計画を読み、このような活動を始めて知りました。記載された内容は良く解りました。第6章「新潟市の図書館運営の理念と目指す図書館像、第7章「評価」は、本計画でOKです。	ご意見ありがとうございます。「評価」を実施しながら、本計画を推進していきます。	無
9	17p	—	図書館にとって資料費は極めて基本的かつ重要な要素です。合併以後の資料費・市民一人当たりの資料購入費の推移、政令市20市との比較を資料として掲載するべきです。そして資料費をどの程度のレベルで維持していくのが望ましいのか、図書館の姿勢を示すと同時にしっかりと議論し市民に提示するべきだと思います。合併時の資料費から見ると、今は半分近くに減ったのではないのでしょうか。資料費が減れば買えない資料が出てきます。その買えなかった資料が実は資料的価値や文化的価値が高い図書館に必要な資料である場合もあります。減るという意味を市民に問いかけていただきたいと思います。	ご意見のとおり厳しい状況にあります。限られた財源の中で、P.15(3)に記載した「効率的・効果的な運営」として、選書会議の工夫により社会情勢や地域の特性・ニーズに合った蔵書の構築に努めます。また、「雑誌カバー等広告事業」に加え、第二次計画ではホームページでの広告事業の検討をするなど、引き続き資料購入費に充てる特定財源を増やす取組を進めていきます。	無